

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.53
2019 10 月号
[October]

巻頭インタビュー

東京大学大学院 工学系研究科 教授
新世代IoT/M2Mコンソーシアム会長

森川 博之 「5Gの実用化が
新たなビジネス領域を生み出す」

第46回東京モーターショー2019

「第7回BIKE LOVE FORUM in やまなし」開催

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

本田技研工業／ホンダコレクションホール



OPEN FUTURE
TOKYO MOTOR SHOW 2019

2019年9月11日

第4次安倍第2次改造内閣の発足について

一般社団法人 日本自動車工業会
会長 豊田 章男

本日新内閣が発足しました。まずは6年半に渡るこれまでの政権運営の中で、アベノミクスを始めとする様々な政策により持続的に経済を成長させて頂いた事に感謝申し上げます。引き続き、安倍総理の強力なリーダーシップと政治基盤の下、「安定と挑戦の強力な布陣」である新内閣が一致団結して、日本経済のさらなる成長に向けた重要政策に、全力で取り組んで頂きたいと思えます。

足元の円高傾向、間近に迫った消費増税の影響など、自動車業界を取り巻く環境は先行き不透明な状況が続いております。国内市場や国内生産がこれ以上縮小していくことになれば、日本の自動車産業が雇用を守っていくことは、更に難しくなってしまうという、強い危機感を抱いています。

日本にもものづくり・雇用を守り続けていくという強い決意の下、自動車産業一丸となって、世界をリードしていくモビリティ産業となるべく必死に努力を続けてまいります。新内閣におかれましては、将来のモビリティ社会を見据えた税制の在り方や規制緩和など、戦略産業としての自動車産業の、中長期での競争力強化に向けたより一層のご支援をお願いしたいと思います。



JAMAGAZINE 2019年 10月号

発行日 2019年9月30日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp
©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



1 東京大学大学院工学系研究科 教授
新世代IoT/M2Mコンソーシアム 会長
森川 博之氏
2 「TOYOTA U25 日本車いすバスケットボール選手権大会2019」開催
3 「第7回 BIKE LOVE FORUM in やまなし」開催
4 学生フォーミュラ日本大会2019
5 本田技研工業 / ホンダコレクションホール

02

巻頭インタビュー

東京大学大学院工学系研究科 教授
新世代IoT/M2Mコンソーシアム 会長
森川 博之氏

「5Gの実用化が 新たなビジネス領域を生み出す」

06

第46回 東京モーターショー2019

08

「TOYOTA U25 日本車いすバスケットボール 選手権大会2019」開催

09

Topics 〈参加者募集〉
「もっと自動車リサイクル」シンポジウム

10

「第7回 BIKE LOVE FORUM in やまなし」開催

12

学生フォーミュラ日本大会2019 ～ものづくり・デザインコンペティション～

14

自工会・2019年 秋の交通安全キャンペーンのご案内

16

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

本田技研工業 / ホンダコレクションホール

17

記者の窓

「何もない」
共同通信社 音光 香菜美

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)





用開始に向け
領域では
要不可欠になる



東京大学大学院工学系研究科 教授
新世代IoT/M2Mコンソーシアム 会長

もり かわ ひろ ゆき

森川 博之氏に聞く

5Gとは

現行の「第4世代(4G)」の最大100倍の速さの次世代通信規格。2時間の映画を3秒でダウンロードできる。

5Gの実用化が新たなビジネス領域を生み出す

国が2020年の運用開始を目指す5G(第5世代移動通信システム)は、超高速、大容量、低遅延、同時多接続、高信頼などを特徴とし、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)、自動運転、ロボット、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)などで新たなビジネス領域を生み出す可能性が見込まれています。特に自動運転領域においては、車車間、路車間通信など、車両自律型、インフラ協調型を問わず5Gが必要不可欠とされ、自動車領域における5Gの早期実用化が期待されています。東京大学大学院工学系研究科教授、新世代IoT/M2Mコンソーシアム会長の森川博之博士に5Gが果たす役割について聞きました。

ヒト・モノをサポート
インフラ整備が重要

「4Gから5Gへ移行することで、どのような変化が起きますか」

「4Gから5Gへの移行は、基本的には従来の1Gからの通信の大容量化の流れの延長線上にあります。ただ5Gが4Gと大きく異なる点は、IoTという新たな軸が生まれるということです。通信の大容量化は、映像などの大容量コンテンツのやりとりを可能とし、『人』とのコミュニケーションインフラとしての機能を果たしてきましたが、5GはIoTにより『モノ』とつながることも可能にするインフラです。『人』に加え、『モノ』もサポートする5Gは、4GではB to C型サービスが中心だった社会を、機械と機械が通信を行うM2MやB to B型事業を実現可能な社会へ移行させるデジタル変革を引き起こします。5Gは、このデジタル変革を行いやすくするインフラといえるでしょう。」

2020年運 自動運転 5Gが必

出しますか

—5G時代の到来は、どんなビジネスチャンスを生み出しますか

「5Gの普及は、インフラが整うことを意味しま

す。インフラが整って初めて、様々なサービスやビジネスが生まれてきます。様々な立場の事業者が5Gで何ができるか、新たなビジネスチャンスを模索しています。インフラが整っていない現状では、ビジネスチャンスがどこで生まれるかは分からないといえるでしょう。例えばインターネットが普及し始めた時代を思い返すと、普及当初、インターネットが何を引き起こすかについて理解できていた人はほとんどいなかったのが現実です。約30年前に光ファイバーが普及し始めた際、当初世間では必要とされる通信容量を小さく見積もっていました。光ファイバーにより通信の高速化が進んだことで映像コンテンツの配信が始まりました。つまり、インフラが整って初めて新たなサービスが生まれるのです」

デジタルが地道に浸透 新たな付加価値を生む

—5Gによるデジタル変革で、社会はどのように変わりますか

「社会におけるデジタル化が目に見えないながら更に革新的に進むでしょう。一般消費者の立場からすれば、5Gによるデジタル変革が起きて日常生活自体は目立って変化しません。ただ、5Gにより産業界にデジタル化が浸透することで、働き方や仕事の仕方が変わっていくでしょう。これがデジタル変革であり、5Gがこれをリードしていくのです。例えば業務における遠隔制御の導入による生産性向上が考えられます。建機メーカーのコマツとNTTドコモは建機の遠隔制御にチャレンジしていますが、遠隔制御により工事現場に作業員が赴く必要がなくなれば、組織のあり方も変えなければいけなくなるなど、会社全体の変革が必要になります。このように、5Gは働き方改革の追い風になります。これが浸透するには時間がかかるのです。かつて産業界の動力

が蒸気機関から電力にシフトするのに30〜40年かかった事実を踏まえれば、デジタル化も同様です。社会が5Gを使いこなすには、最低でも10年間はかかるでしょう」

—グローバルで見た場合、5G導入における日本の立ち位置はどうでしょうか

「工場のスマート化を目指すインダストリー4.0の概念を発信したドイツでは、これに真に向きなのは一部の大企業だけで、中小企業にはまだ浸透していないのが現状です。一方日本では、各種製造業が5Gを活用したスマート工場化を模索し始めており、ドイツと大差ない状況にあります。日本は生産性の低さが指摘されているほか、人口が減少傾向にあります。5GやAI、IoTという概念が認知され始め、これらのツールをうまく使いこなすことで様々な産業セグメントで生産性が向上すれば、新たな付加価値が生まみ出されるため、日本にとって『二丁目一番地』でしょう。多くの人が5Gで何をできるかを

考えることはデジタル変革への近道であり、5Gの盛り上がりは世の中を確実に良くするでしょう」

5Gの特性を生かし 自動運転を支える

—自動運転を始め、5Gは自動車業界にどんな影響を与えますか

「自動車業界は、通信の安定性や信頼性にことのほか敏感です。人命にかかわる自動車技術においては、特に通信の信頼性は100%でないとダメとの考え方が強いので、現状では自動車業界は5Gに対して距離を置きながら見ているとの印象を受けます。確かに5Gは電波であり、複数の反射などで電波が届いても干渉の影響で信号誤りが発生する可能性を完全に否定することができないため、信頼性という意味では99.99%の水準に達していても100%とはいえないのが現状です。一方で、5Gは周波数が高いため通信の安定性、信頼性を確保するために、基地局が満遍なく設



東京大学大学院工学系研究科 教授 新世代IoT M2Mコンソーシアム 会長 森川 博之氏 に聞く

もしれない信号誤りを他の手段で埋め合わせ

仕組みが出てくると思いますが。なるべく車両単体の自律性を高め、通信技術に頼る領域とのバランスを考えるなど、各領域の技術の長所を組み合わせることで、信頼性確保における解決策が見出せるでしょう」

「自動運転化には各種法整備など課題山積ですが、5G導入に向けた自動車業界の課題は何でしょうか」

「課題は2つあります。1つ目は、特に自動車メーカーが5Gを新規事業と位置づけ、フットワーク軽く様々なことにチャレンジしてみる姿勢が必要でしょう。今後、通信事業者以外にも

周波数免許を与える『ローカル5G』が動き出します。これにより、工場の敷地内や社内限定して5Gネットワークの展開を試すことができるようになります。自動車業界には、開発から生産、販売と幅広く5Gを試せる領域があるので、とにかくチャレンジしながら技術やビジネスネタを考える感覚を身に付けてほしいです。コストなど『数字』から考えてはいけない世界です。チャレンジして初めて費用対効果が分るものです。5GにおいてはPDCA(計画、実行、評価、修正)的思考回路ではなく、OODA(観察、方向付け、決心、行動)でフレキシブルなマネジメントが重要です。5Gに関して、経営陣は部下が失敗しても褒めてあげるスタンスでいてほしいですね」

「2つ目は、様々な技術を組み合わせる社会的ニーズや顧客をつなぐ場の創出やこれを実行する人材の育成、評価が不可欠でしょう。社会の発展に必要な新たな技術を浸透させるには、まず民間が主導してコンソーシアムを醸成し、国を動かしていくのが定石です。技術の進化や法

整備など自動運転化には課題が山積する中、自動車メーカーなど民間企業がこれらのバランスをとり、『国のために』一肌脱ぐことでこそグローバル競争力の確保にもつながります。日本は、協調領域で場を作つて盛り上げるのが相対的に苦手です。豊富な技術や技術者といった『ツール』を組み合わせる新たな価値を生み出すディレクター的役割を果たす人材の育成、活用を急いでほしいですね。各企業のリソースと社会のニーズを結びつけるには、『共感力』を以って『三方良し』の世界を作れる人材が重宝するので、このような人材をもっと評価してほしいですね」

5Gを契機に 自動運転社会づくり

「改めまして、自動運転の将来性について」

「自動運転は確実に普及するでしょう。自動運転のあり方として、『現在の車が自動運転する』姿を考えがちですが、予想も出来ない様々な形態が出てくるかもしれません。5Gの登場が

いろいろな形態に想いを巡らす契機になってほしいと思つています。ただ、5Gの登場で一気に自動運転が進むとは思っていません。5Gの信頼性について、自動車メーカーは慎重な上に、通信事業者も『絶対安全です』とは言いつらい立場にあります。自動運転でどのように5Gの機能を活かしていくかがポイントです。ここで重要なのは、自動運転で事故が発生した場合、責任の所在を車や通信側に求めず、あくまで人為ミスに起因するという考え方にしないと、自動運転の普及は難しいということです。例えば、自動運転専用レーンを作り、このレーンに人が侵入して事故が起きれば責任は侵入者にあるといった制度を細かく策定すれば、急速な普及が見込めるでしょう。イギリスでは、1860年代に自動車普及し始めた頃、『赤旗法』を施行しました。これは、車は基本的に危険なので、人は車の前で旗を振りながら走りなさいと定めた法律で、示唆に富んでいます。技術と人間が共存するには、バランスが重要で、技術者も各種制度作りに関わるべきでしょう。5G

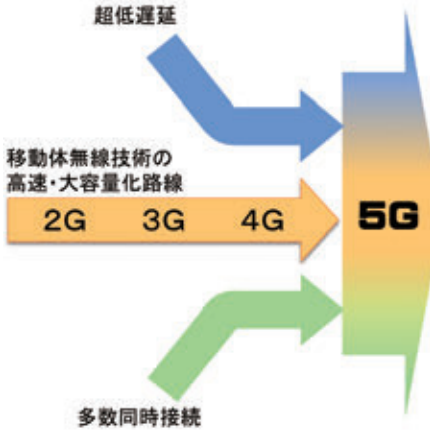


総務省

5Gとは、4Gを発展させた「超高速」だけでなく、「多数接続」、「超低遅延」といった新たな機能を持つ次世代の移動通信システム

- ・「多数接続」 → 家電、クルマなど、身の回りのあらゆる機器(モノ)がつながる
- ・「超低遅延」 → 遠隔地においてもロボット等の操作をスムーズに行うことができる

5Gは、IoT時代のICT基盤



超高速
現在の移動通信システムより100倍速いブロードバンドサービスを提供



⇒ 2時間の映画を3秒でダウンロード

超低遅延
利用者が遅延(タイムラグ)を意識することなく、リアルタイムに遠隔地のロボット等を操作・制御



⇒ ロボット等の精緻な操作をリアルタイム通信で実現

多数同時接続
スマホ、PCをはじめ、身の回りのあらゆる機器がネットに接続



⇒ 自宅屋内の約100個の端末・センサーがネットに接続
(現行技術では、スマホ、PCなど数個)

東京の病院の専門医がヘリ内の医師に指示をしながら遠隔で処置。

ヘリ内で緊急手術

社会的なインパクト大

に過度な期待をせず、一方で5Gをきっかけに自動車メーカー

が通信事業者と共に自動運転社会を作り出す「心」を醸成してほしいですね

「自動運転領域で5Gが生かせる」という意味では、信頼性確保の意味で人命に関わる自動運転は最後の段階になるでしょう。一方、生産領域においては、機械の種類によりですが、5G導入は比較的スムーズに進むと思います。産業機械を始め、業界の期待は大きいはずですが、開発領域においても、信頼性の影響が自動運転に比べれば少ないので、リアルとバーチャルの融合による

「自動運転以外の領域でも5Gは生かせるか」

「自動運転領域で5Gが生かせる」という意味では、信頼性確保の意味で人命に関わる自動運転は最後の段階になるでしょう。一方、生産領域においては、機械の種類によりですが、5G導入は比較的スムーズに進むと思います。産業機械を始め、業界の期待は大きいはずですが、開発領域においても、信頼性の影響が自動運転に比べれば少ないので、リアルとバーチャルの融合による

開発期間の短縮など、成果を期待できるでしょう。また、生産した出荷前の完成車を広大な敷地に並べる場合、どの車が何処にあるかを把握するのが実は難しいという事例を聞いたことがあります。この場合、5Gの導入で解決策が見つかるかもしれませんね」

社会生活の改善に波及効果が期待できる

「5Gによるデジタル変革で拙く先生の夢を教えてください」

「思わぬところなど隔々にまでデジタルが入り込む社会を実現したいですね。例えば、地すべりの現場にセンサーを入れて予知を可能にすることで死亡事故を無くすなど、デジタル化により「地味」だけでも無意識のうちに社会生活が改善していくといった世界を作りたいです。昔、家事労働の削減を目的に発明された洗濯機が急速に普及した際、世の中の衛生観念が変わりました。誰もが綺麗好きになり、毎日服を着替えるようになった結果、衣類業界が急拡大

profile

1987年東京大学工学部卒業。92年同大学院博士課程修了。博士(工学)。06年東京大学大学院教授。02～07年NICTモバイルネットワークグループリーダー兼務。モノのインターネット/M2M/ビッグデータ、センサネットワーク、無線通信システム、情報社会デザインなどの研究に従事。電子情報通信学会論文賞(3回)、情報処理学会論文賞、ドコモモバイルサイエンス賞、総務大臣表彰、志田林三郎賞など受賞。OECDデジタル経済政策委員会(CDEP)副議長、新世代IoT/M2Mコンソーシアム会長等。総務省情報通信審議会委員、国土交通省国立研究開発法人審議会委員等。著書「データ・ドリブ・エコノミー」など。

しました。このような波及効果は、洗濯機が世に出た当初、誰も予想しなかった現象でした。5Gによるデジタル変革も同様の可能性を秘めています。自動車業界も5Gをきっかけに変化していくのではないかと思います」

無料エリアの見どころをご紹介します!

MEGA WEB 入場無料



様々な業界がつくる、
近未来体験空間

自動車業界の枠を越えた様々な企業によるプロダクトや先進テクノロジーで、MEGA WEBが近未来空間に。「入国」「交通」「都市」「地方観光」「スポーツ」「未来のエネルギー」など、テーマに沿って、ちょっと先の「未来」が楽しめます。



“FUTURE EXPO”詳細はコチラ

OPEN ROAD

シンボルプロムナード公園 入場無料

未来のモビリティに乗って、青海エリアと有明エリアを移動しよう!
バラエティ豊かなモビリティが集まった
東京モーターショー2019のシンボルロード

今年には東京ビッグサイト西・南展示棟がある、「有明エリア」に加え、新たに「青海エリア」まで会場を拡大。そのふたつのエリアをつなぐ約1.5kmの一本道がOPEN ROADです。電動キックボードや、次世代小型モビリティなど未来のモビリティに乗って、自由自在に行き来できます。

OPEN ROADには、普段は見ることのできないレアなモビリティをはじめ、スーパーカーやカスタマイズカー、キャンピングカーなどが大集合します。ゲートめぐると、そこはモビリティのテーマパーク。キッチンカーで食べ歩きながら、観て、乗って、OPEN ROADを楽しんでみてください。

モビリティの試乗には、入場券が必要です。詳しくは公式Webをご覧ください。





OPEN FUTURE TOKYO MOTOR SHOW 2019

第46回 東京モーターショー 2019 10月24日(木) - 11月4日(月・祝) 東京ビッグサイト - お台場周辺エリア



DRIVE PARK

TFTビル横 駐車場 **入場無料**



プロデューサー
ピストン西沢

最新の乗用車・二輪車試乗体験、
日本自動車ジャーナリスト協会
(AJAJ)会員等が運転する同乗
試乗体験など、クルマ・バイクの「走り」
を実際に乗って体験できる試乗エリア
です。ピストン西沢氏プロデュース
の「動くクルマ図書館ステージ」や、
「ドリフト同乗体験、世界レベルの」
「ローンレース」も開催します。

クルマ・バイクのエキサイティングな楽しさを体験

[Test Drive & Ride]

乗用車公道試乗体験：10/25(金)~11/3(日)

AJAJ協力同乗試乗体験：10/28(月)~10/31(木)

最新二輪車試乗体験：10/28(月)~10/31(木)

試乗体験には、入場券が必要です。
詳しくは公式webをご覧ください。



[Drone Race]

FAI Drone TOKYO 2019 (予定)決勝大会：
11/2(土)



TOKYO MOTOR SHOW X COUNTDOWN SHOWCASE

FUTURE EXPO



世界最高峰の
e-Motorsportsを
体感しよう！

PlayStation
ion[®] 4用ソフト
ウェア「グランツー
リスモSPORT」
を使った、リアルと
ゲームが融合した
走りを体験でき
ます。レース大会
も同時開催。

10/27：都道府県対抗U18全日本選手権

10/26~27：FIA グランツーリスモ チャンピオンシップ
2019シーズン ワールドツアー第5戦

「PlayStation[®]」は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。
©2019 Sony Interactive Entertainment Inc. Developed by Polyphony Digital Inc.



(9月7日)

「TOYOTA U25 日本車いすバスケットボール選手権大会2019」開催

25歳未満の若い選手を中心とした、各地域からの選抜チームが集まる全国大会



迫力ある競技に圧倒 自工会企画部会・WGの26人が応援



参加者の声

本田技研工業 渉外部 国内渉外課 深山 寛泰氏

ひとこと言うと、とてもスリリングで大興奮でした！理由は二つ。一つは観戦した試合が44対42の大接戦で、バラスポーツかどうかなんて関係なく手に汗握る熱戦だったこと。二つ目は、リオパラリンピックに出場し、現日本代表の若手注目株の鳥海 連志選手のレベルの高さに圧倒されたこと。すば抜けた能力が、イスバスを初めてみた素人目にも際立っていました。全部の試合を観れなかったので、結果が気になって帰宅後ググって結果を調べたくらいです(笑)イスバスに魅了されました！

SUBARU 渉外部 飯塚 葉子氏

初めて車いすバスケットボールを観戦しましたが、まるで車いすが身体の一部のようで、スピード感と迫力のあるプレーに圧倒されました。アスリート1人1人の気迫も感じられ、自然と応援にも力が入りました。「またバラスポーツを見たい！」そう思いました。

スズキ 経営企画室 東京支店 渉外課 林 なな氏

初めてパラリンピック競技を生で観戦させていただきました。障がいがあると感じさせないほどに自由にボールを扱うアスリートたちの姿は圧巻でした。また、車いす同士でぶつかり合う、という車いすバスケットならではの迫力にも魅力を感じ、他のパラリンピック競技ももっと見てみたいと感じました。パラリンピック競技の魅力も、多くの人に伝えていきたいです。

三菱自動車工業 管理本部 総務渉外部 横山 英二氏

ボールをもっていない選手にも車いすで進路をふさぐ激しい攻防があり、終始、目が離せませんでした。戦術を駆使した、流れるような得点シーンは爽快です！東京パラリンピックで観戦が楽しみな競技が、陸上、ゴールボールに加えて、また一つ増えました。

「TOYOTA U25 日本車いすバスケットボール選手権大会2019」が9月7日、スカイホール豊田(愛知県豊田市八幡町)で開催されました。熱戦の末、関東選抜Bチームが優勝しました。準優勝は関東選抜Aチーム、3位は東海北陸選抜チーム。この大会は25歳未満の選手や30歳未満が

つ競技歴3年未満の選手を対象にしたもので、若手選手の登竜門とも位置付けられています。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたソフトレガシイ活動の一環として、日本自動車工業会企画部会・ワーキンググループ(WG)の26人が観戦、応援しました。



普及啓発冊子「もっと自動車リサイクル」

資源循環は「持続可能な社会」の重要なキーワードです。公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）環境委員会では、資源循環の視点から自動車と自動車リサイクルについて学び、より一層限りある資源を大切に使うために消費者は何ができるのかを、普及啓発冊子「もっと自動車リサイクル」にまとめました。

また、10月11日には、この冊子が提案するアクションにかかわる多様なステークホルダーにご参加いただき、それぞれの立場でできることを話し合うことを目的にシンポジウムを開催いたします。自動車関係団体の皆さまの多数のご参加をお待ちしております。

参加者募集

「もっと自動車リサイクル」シンポジウム

SDGs時代の資源循環を考える 「もっと自動車リサイクル」シンポジウム開催

日時	2019年10月11日(金)	会場	日本自動車会館 くるまプラザ会議室 (東京都港区芝大門1-1-30)
主催	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会		
後援	一般社団法人日本自動車工業会	他	参加費 無料

●詳細・お申込みはこちら

http://www.nacs.or.jp/kankyo/study/auto/simpo_191011.html



●冊子のPDFおよび電子ブックはこちら

http://www.nacs.or.jp/kankyo/study/auto/leaflet_1903.html



「二輪車の魅力と普及促進」を発信
バイクで地域振興の活性化も

「第7回BIKE LOVE FORUM in やまなし」開催

(9月20日)



約250人が集い
バイク文化の発展に
期待を寄せた

経済産業省自動車課
河野太志課長

山梨県
長崎幸太郎知事

全国オートバイ協同組合連合会
大村直幸会長

「第7回 BIKE LOVE FORUM in やまなし」が9月20日に甲府市内のベルクラシック甲府で開かれ、主催者、二輪車業界団体、関連自治体らがバイク文化の創造に向けた対談やパネルディスカッションなどのプログラムを通して、「二輪車の魅力と普及促進」を発信しました。『セーフティーライディングで自然を楽しもう』の開催テーマに沿って、安全・安心、社会との共生、快適・楽しさなどの実現に向けて様々な意見や要望を交わしました。また、全国的な「三ない運動」の廃止や見直し機運についての話題が多く、二輪車安全運転教育の充実化などによって、よりよい二輪車社会の醸成と需要の活性化が期待されていました。今回の開催地・山梨県はお薦めの走行スポットをはじめ、観光・グルメ情報なども公開し、バイク利用者による地域振興の活性化もPR。当日から11月まで実施するスタンプラリー形式の「やまなしツーリングキャンペーン」がスタートし、多くのライダーの参加を呼びかけました。なお、来年は大阪府での開催となります。

■バイクユーザーなど 約250人が参加

BIKE LOVE FORUM (BLF) は経済産業省・二輪車業界団体(日本自動車工業会、全国オートバイ協同組合連合会、日本二輪車普及安全協会など)、地方自治体を中心に毎年開催しており、今回が7回目となります。大会関係者とともに多くのバイクユーザーも参加、約250人が熱心に聴き入っていました。

■市場拡大のチャンス

主催者を代表して、経済産業省自動車課の河野太志課長は、「BLFはバイクへの理解や関心を深めるきっかけであるとともに、バイク・観光などの関係によって市場拡大の

チャンスともなります。経産省としても二輪産業施策にしっかりと取り組んでいきます」と挨拶しました。

開催地からは山梨県の長崎幸太郎知事が「山梨は景勝地も多く、ライダーの皆さんがツーリングを楽しむにはもってこいの地。8月に『ワイン県宣言』をさせていただいたが、美味しい日本酒、ウイスキーも多い。周遊して存分に楽しんでいただきたい」とBLFを歓迎しました。

経済産業省自動車課の内藤貴浩課長補佐は、策定から6年目となる「二輪車産業政策ロードマップ」の進捗状況において、安全・安心な二輪車の醸成、社会との共生実現、社会基盤の整備、免許制度の見直しなどの実施策について詳しく解説しました。

〔総評〕グッドマナー、安全運転、格好いいライダー文化の推進

総評で日本自動車工業会二輪車特別委員会の日高祥博委員長(ヤマハ発動機・代表取締役社長)は「毎年いろいろな視点で皆さんからのご意見をいただき、今回もポジティブな気付きや反省すべきポイントもありました。二輪車の素晴らしい文化が根付いてきていて、いろいろな方面でやっている取り組みや活性化努力を、パブリックにもっと発信していかなければならないと感じました。今後も業界全体の発展とともにグッドマナー、安全運転、格好いいライダー文化が日本に根付くことをBLFとともに推進していきたい」と述べました。



自工会・二輪車特別委員会
日高祥博委員長

パネルディスカッション

「やまなしを楽しくセーフティライディング」 山梨発・二輪車交通安全対策

第一部のパネルディスカッションでは「やまなしを楽しくセーフティライディング」をテーマに、関連する県職員や二輪車関連団体識者ら6人が参加し、山梨県の二輪車交通安全対策の活動事例など、バイクユーザーを増やすための方策などについて活発な議論を行った。山梨では平日は原付、週末は県外ライダーの事故が増える特徴があるといえます。それについて「双方に交通安全に對する違ったアプローチが必要ではないか」、事故多発地域においては通行禁止措置などもありますが「禁止、禁止だけでなく、二輪車利用者の安全運転意識に訴える活動が求められる」とし、実際に二輪車事故が急減した事



左から鶴田さん、中西さん、作田さん、中村さん、前野さん、稲垣さん



左から美環さん、松下尚司さん、福本さん、澤田さん



女性ライダーのパネルディスカッションに参加した上段左から松崎祐子さんと渋谷有佳さん、下段左から小田切いくみさん、山根智子さん、川崎由美子さん

は、時代の推移とともに大きく環境も変化してきました。現在ではウェアの進化に伴うファッション性の充実や、バイク女子部などグループ活動の活性化、SNSでの情報入手法や公開共有などにより、多くの女性ライダーたちが繋がりを深め、バイクライフを楽しんでいる現状が話し合われました。

故ゼロ作戦の活動報告や、埼玉県の二ない運動の見直しを受けた埼玉県での高校生二輪車安全運転講習の実例や展開にあたっての課題が発表され、高校生世代への交通安全教育の重要性や彼らを取り巻く関係者が一体となつて推進していく重要性を認識して取り組むことが、「二輪車利用の健全な発展と活性化に繋がる」との意識を共有しました。

◆パネラーは前野克典さん、中村洋一さん、鶴田治彦さん、作田裕樹さん、KAZU中西さん、稲垣貞志さんの6人。

トーク対談

「新時代令和 これからのバイクデザイン」 生き残れないはずがない

トーク対談「新時代令和 これからのバイクデザイン」には、川崎重工業から福本圭志デザイン部長、本田技研工業の澤田琢磨二輪事業本部ものづくりセンター技術主事デザイナーの二輪車メーカーのデザイナーが登場。「デザインの定義とは」など日頃聞くことができない貴重な話しを披露しました。デザインを具現化するため、常にアンテナを張り巡らせ、それぞれの価値観の違いやちよつとした

変化に對する探究心、好奇心に磨きをかけ探り続けていく実行力が必要との共通認識を挙げていました。

パネルディスカッション

「女性ライダーの活躍に期待」 その最新事情と増加策とは

パネルディスカッションでは「女性ライダーの活躍に期待」と題して、二輪ジャーナリスト、ピギナーライダーら女性5人が「女性ライダーの最新事情」、「女性ライダーを増やすには？」などをテーマに議論を交わしました。

女性ライダーとバイクの関係は、時代の推移とともに大きく環境も変化してきました。現在ではウェアの進化に伴うファッション性の充実や、バイク女子部などグループ活動の活性化、SNSでの情報入手法や公開共有などにより、多くの女性ライダーたちが繋がりを深め、バイクライフを楽しんでいる現状が話し合われました。

将来を担う自動車業界の人材を育成

国内外から89チームが参加、27校が自工会会長賞に輝く

自動車技術会（自技会、坂本秀行会長）が主催する「学生フォーミュラ日本大会2019」が8月27〜31日の5日間、静岡県内で開催されました。今年度は国内外から89チームが参加。連日の猛暑にも負けず、若きエンジニア達が熱い戦いを繰り広げました。総合優勝は名古屋工業大学が勝ち取り、初の栄冠を手に入れました。また、全ての審査に参加し、完遂完走したチームに贈られる「日本自動車工業会（自工会）会長賞」には27校が選ばれました。

■自動車メーカーが支援

同大会は、将来の自動車業界を担う人材の育成を目的に、2003年にスタートしました。フォーミュラカーの企画から設計、製作までを学生が担い、その完成度を競います。自動車業界の振興を目的に、自工会の会員会社も支援を続けています。

年々開催規模を拡大しており、海外チームの参戦も増えています。グローバル大会の位置づけを強めるため、今回から「全日本学生フォーミュラ大会」から「学生フォーミュラ日本大会」に名称を変更し、新たな

スタートを切りました。新名称での第一回開催となった今回は、ガソリンエンジンクラスに69チーム、電気自動車（EV）クラスに20チームが参戦し、計89チームが技術力を競いました。そのうち21チームが海外チームでした。

■企画力、設計力を問う

審査項目は大きく分けて2つの種類があります。「静的審査」と「動的審査」です。静的は325点満点で、そのうち150点分を「デザイン」が担います。設計の適切さや革新性、加工性などを口頭試問で審



総合優勝に輝いた名古屋工業大学は速さを追求した



EVクラス1位の名古屋大学EVチーム



査します。また、年産1000台と仮定し、コストの妥当性を審査する「コスト」、学生自身が製造販売を想定したビジネスプランを披露する「プレゼンテーション」なども審査項目に含まれており、量産を前提に企画力や設計力を競います。

動的は67.5点満点で、実走して走行性能や耐久性を審査します。中でも「エンジンランス」という直線、ターンなどの約20キロメートルのコースを周回する項目は、27.5点分を占めており重要です。静的、動的審査の前には「車検」項目があり、ブレーキ性能や騒音のチェックなどを行います。

■名工大が初の総合優勝

5日間の激闘を制したのは、名古屋工業大学(名工大)でした。初の総合優勝に、3年生でキャプテンを務めた八幡美春さんは「チームの強さを『速さ』で証明できた」と笑顔で成果を話しました。名工大チームがまず取り組んだのは、軽量化です。エアロなどの各パーツで1割減を目標に掲げ、結果として総重量20キログラム減を達成しました。静的審査では「若干出遅れた」と言いますが、後半の動的審査ではチームの強みで

ある速さで圧倒。特にコーナリング性能を競う「スキッドパッド」と「エンジンランス」では2位に12〜22ポイント以上の大差をつけました。

■EV部門1位は名古屋大

EV部門で1位、総合3位に食い込んだのは名古屋大学EVチームです。2年前からEVクラスに転向し、昨年度も総合3位を獲得しました。4カ年計画でパワーユニットを変更し、四輪インホイールモータの車両「FEM-16」で勝負に臨みました。EVで初の総合優勝を目指していたため「悔しいが、来年に向けてまた動き始めたい」と豊島義弘キャプテンは次を見据えています。

総合6位に入賞した茨城大学の岡勇希キャプテンは「表彰台に登るのが目標だった。達成できて本当にうれしい」と結果に満足している様子でした。「様々な部品の信頼性が低く、トラブルが頻発し走行距離を稼げなかった」という昨年の反省を生かし、部品や車両の構造を一旦から見直した結果、見事に表彰台最後の椅子を手に入れました。「天候も味方した」と謙遜しますが、「走り切れる車両の信頼性」に重きを置いた戦略が結果に結びつきました。



自動車メーカーやサプライヤーも様々な形で大会を支援する

総合成績

順位	Car No.	学校名	Total Score
1	7	名古屋工業大学	800.81
2	10	横浜国立大学	787.59
3	E01	名古屋大学EV	746.31
4	3	Tongji University	673.85
5	8	神戸大学	667.47
6	13	茨城大学	652



自工会・2019年 秋の交通安全キャンペーン のご案内

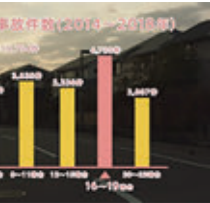


一般社団法人日本自動車工業会(会長:豊田 章男、以下自工会)は、9月21日(土)~12月31日(火)までの間、政府の実施する秋の全国交通安全運動*と連動し、「自工会・2019年秋の交通安全キャンペーン」を実施します。*主催:内閣府他、期間:9月21日(土)から9月30日(月)

■秋の交通安全キャンペーン ~秋の交通安全のおまじない ハヤ・ピカ・パット~

秋の交通安全のおまじない
ハヤ・ピカ・パット
秋の交通安全キャンペーン期間
2019年9月21日~12月31日

一般社団法人 日本自動車工業会



運転を心がけて頂き
うございます。

カバット
人 日本自動車工業会

本年7月末の交通事故の発生件数は21万8543件と前年同期より2万8038件減少(マイナス11.4%)し、死者数は1647人で前年同期より236人減少(マイナス12.5%)となっております。

しかしながら、交通死亡事故は例年10月から年末にかけて薄暮時間帯に多く発生していることから、運転者及び歩行者にこのような状況を周知して安全意識の醸成を図ることが重要です。

当会としては、2016年に政府が作成した第10次交通安全基本計画(平成28年度~32年度)において、世界一安全な道路交通を実現するため、2020年までに交通事故死者数を2500人以下とする目標の実現に向けて、一層の車両安全対策に取り組みとともに、交通安全活動の一環として秋の交通安全キャンペーンを実施し、安全な交通社会の実現に貢献してまいります。

秋の交通安全キャンペーンの考え方

本キャンペーンは、一人ひとりの交通安全に対する意識を行動につなげて習慣化することを目的に実施。ポイントとして、日本人に古くから馴染みのある「おまじない」に着目し、日本交通心理学会協力のもと、心理学的に

効果のある「おまじない」を開発しました。

開発した「おまじない」には、何度も唱え、記憶することで、日常的な交通安全行動を心がけて欲しいという願いが込められています。

キャンペーンの訴求テーマ

●ドライバー向けテーマ
「夕方早めのヘッドライト点灯促進、ハイビームの有効活用促進」


例年、秋~冬の薄暮時間帯の死亡事故件数は春~夏に比べて大幅に増加しており、薄暮時間

■ 訴求のポイント

実施期間	2019年9月21日(土)~12月31日(火)
訴求内容	高齢者の歩行中の交通死亡事故抑止に向けて、 ・ドライバーに対し、 夕方早めのヘッドライト点灯、ハイビームの有効活用 を訴求する。 ・高齢者に対し、夕暮れ時から夜間歩行中の 反射材着用 を訴求する。 二輪乗車中の交通死亡事故抑止に向けて、 ・二輪ライダー及び同乗者に対し、あごひもをしっかり締めるなど、 ヘルメットの正しい着用 や 胸部プロテクター の着用推奨を訴求する。
スローガン	秋の交通安全のおまじない“ハヤ・ピカ・バット” 車に乗ったら、夕暮れ“ハヤ”めのヘッドライトを点けて、暗い道では対向車などに気を付けて、ハイビームで“ピカッ”と、歩行者は反射材で“バット”明るく。

■ 具体的展開

幅広い世代に人気のタレント「柳原可奈子さん」が交通安全の魔法使いとして、「夕方早めのヘッドライト点灯・ハイビームの有効活用」、「夜間の反射材着用促進」、「ヘルメットの正しい着用促進、胸部プロテクターの着用推奨」を訴求するスペシャルムービーを以下のメディアに配信。

YouTube	スペシャルムービーを配信
ラジオ CM	ニッポン放送系列ネットスポット放送 10月1日~31日・月~金曜日放送
キャンペーンサイト	スペシャルムービーや、訴求テーマに基づく事故実態データが見られるキャンペーンサイトの開設 http://jama-cp-anzen.jp/ 

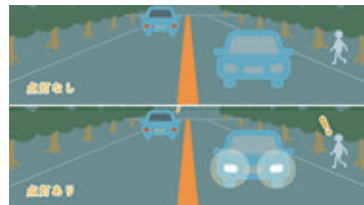
- ・高齢者の反射材着用を促進するため、高齢歩行者死者数が多く、且つ高齢歩行者死者数の割合が高い新潟県、栃木県の動員数の多い映画館（一部）において「反射材」等を配布し、反射材の着用促進を図る（9/13~9/19〔敬老の日を含む〕）。
- ・会員各社のホームページ、SNS等に交通安全キャンペーンサイトへのリンクバナーの設置（9/21~12/31）。

高齢歩行者の死者数は昼間に比べて夜間の歩行中死者数が約1.7倍高いことから、夕暮れ時から夜間において道路を横断する際は安全

● 高齢歩行者向けテーマ
「夕暮れ時の道路横断への注意喚起・反射材の着用促進」

- （*1）2018年警察庁「交通事故の発生状況等について」
- （*2）2017年警察庁「交通事故の発生状況等について」
- （*3）2018年警察庁「平成30年中の交通事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について」
- （*4）2018年警察庁「交通事故統計」

■ スペシャルムービー概要

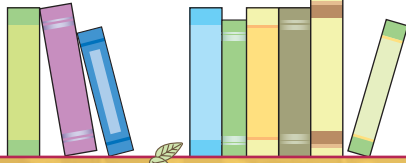


みんなの心がけで事故のリスク下げましょう

いつも安全にありがとう
 ハヤピカバット
 一般社団法人 日本自動車工業会

帯における「自動車対歩行者」の死亡事故件数は時間あたり昼間の約4倍となっています。
 （*1）
 また、「自動車対歩行者」の夜間における死亡事故は、ハイビームを活用することで5割以上が回避できた可能性があるとの調査結果が出ており（*2）、ドライバーは、夕方早めのヘッドライト点灯、およびハイビームを有効活用していくことが重要です。

を確認し、**反射材**を着用することが重要です。（*3）
 ● 二輪ライダー及び同乗者向けテーマ
「ヘルメットの正しい着用促進、胸部プロテクターの着用促進」
 二輪車の死亡事故の約70%が、頭部、胸部が損傷主部位となり死亡しています。（*4）
 また、二輪乗車中の事故死者のうち3割以上が事故時にヘルメットの離脱をしていることから、二輪車の死亡事故リスクを減少させるためには、あごひもをしっかり締めるなどの**ヘルメットの正しい着用**や、**胸部プロテクター**を着用することが重要です。



CAR Manufacturer
自動車博物館 関連施設
 紹介シリーズ

本田技研工業／ホンダコレクションホール

ホンダの原点の心を多くのお客様にお伝えすることを目的として開館。創業者、本田宗一郎の「製品は嘘をつかない。ほんとうにいいものなら、必ず成功するんだ」「ホンダのみんなが何を考えてつくってきたか。みんなのつくったものを皆さんにお見せすればいい。こんな正直なホンダはどこにもないぞ」の言葉が発端になっています。



Honda Collection Hall (3階建て)

1階



ASIMOスーパーライブ

ASIMOデモを実施

2階



2輪市販車

自転車用補助エンジンから始まったホンダの2輪車の歴史を紹介

3階



2輪レース車

WGPに参戦した数多くのマシンやバリダカを4連覇したオフロードマシンを展示



ピット工房

電動モーターで走る乗り物を自分で組み立てて走らせることができます



4輪市販車

ホンダ初の4輪車である軽トラックや小型スポーツカーなどを展示



4輪レース車

歴代F1マシンや全日本GT選手権に挑戦したNSXなどを展示

*他に「閲覧室」「ミュージアムショップ」
 「Honda 夢と挑戦の軌跡」があります

<https://www.twining.jp/collection-hall/>
 QRコードよりホンダコレクションホールのウェブサイトをご覧いただけます。



インフォメーション

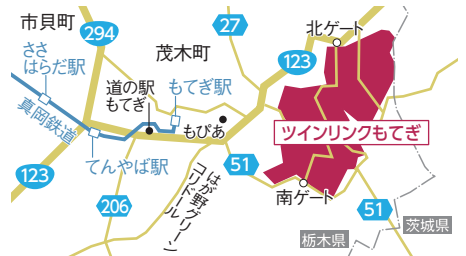
所在地 ツインリンクもてぎ 〒321-3597 栃木県芳賀郡茂木町松山120-1

●ホンダコレクションホールはツインリンクもてぎ内にごさいます
 ご入館は無料ですが、ツインリンクもてぎへのご入場に際しては
 下記の入場料金、駐車料金が必要です

●通常営業日(特別イベント・レース開催日を除く)

入場料金			駐車料金		
大人 (中学生以上)	子ども (小学生)	幼児 (3歳~未就学児)	4輪	2輪	バス (大型・中型・マイクロ)
1,200円	600円	300円	1,000円	500円	1,500円

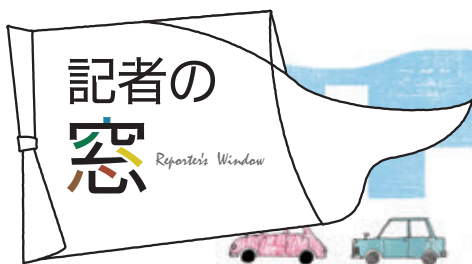
●営業時間 = 09:30 OPEN 17:00 CLOSE ※季節・曜日により異なる
 ご入場の際は南ゲートからお越しいただくとお近くで便利です



携帯電話・スマートフォンでQRコードを読み取ると、
 詳細な地図をご覧いただけます。

【資料・画像等提供=ホンダ】





Reporter's Window



共同通信社

おとみつ かなみ
音光 香菜美

何も無い

◎ テレビもない(民放3局しか)、ラジオもない(FM2)、車もそれほど走ってない。渋滞もない、信号もない、歩行者もいない。何も無いことは最高だ。2005年に入社して名古屋、富山、広島、東京、秋田と私の記者生活の大半は転勤ライフになった。弊社の場合、基本的に行き先は選べず、一力所2〜3年になる。

◎ 富山に行ったころは順応できず、当時流行したテレビドラマをまねて「sex and the city」ことと題した女子会を夜な夜な開いていた。ドラマはニューヨークを舞台に、華やかな職業の女性がボーイフレンドとくっついったり別れたりする内容だ。我々は名古屋や東京の大都市から来た記者ばかりで、いつ事件で呼び出されるか分からない生活に「シティでもないし」「いい男もない」などと、外れの合コンの反省会のようにだった。

◎ 「何も無い」と言いながら1年過ごして春になり、ある夜なぜか「イ

力をすくおう」と思い立った。ニューアも少なく落ち着いていたところで、富山湾の春の風物詩「ホテルイカ」の話題が出始めていた。春に深海からホテルイカが産卵のため浜辺に押し寄せる。地元の人にはバケツですくって大量にゆでて食べるらしい。

狙いは明かりのない新月で曇りのちよつと生暖かい夜だ。そんな夜に女子会仲間と40分ほどかかる隣の海岸をめざした。深夜2時の人のいない岸壁や砂浜には、真っ青な光を放つホテルイカの大群が、いなかった。砂浜に数匹、クリスマスツリーみたいにピコピコ光る数センチのイカが打ち上げられているだけだった。砂だらけのぷりぷりの生き物は食べられない。海に放り投げて終了した。

◎ 仕事でもなく手ぶらで、深夜の誰もいない国道を走るのはあほらしくて最高だ。当時何を考えていたか覚えていない。どつでもいいことをしようとしたのは多分、何も無いからだ。なければ動いて探すしかない、

行った先に本当に何も無いとしても。何もなくてもそれで良い。その辺から私は県境の町まで行ってみたり取材と称して遠出したり、女子会も氷見のぷりを買に行ったりしての鍋パーティーに徐々に変わった。

イカは結局すくえなかったが、ほかの町に引越してからも何も無いのは悪くない。看板も家もずつとない道や、雪に覆われて白線の見えない道も、雪が溶けると春らしい肥やしの変化がただよう道も、何度も通り変化に気づけるようになると、そこはもう何も無い場所ではなくなる。夏に道ばたにいますアイス売りに寄り道するのは、目的地に直行するより案外と難しい。何も無いかもしれない場所にあえて行ってみるのは最高の贅沢だった。

◎ 東京に戻って約1年になり、今は「東京には意外と何も無い」と思う。道の駅もないし農協もない、山菜もキノコも生えてない。これはチャンスだ。探して銀座に山くらい見つか



目指せ、 自動車盗難 ゼロ!

Japan Automobile
Manufacturers Association
vol.53 2019

日本自動車工業会 [JAMA GAZINE] 10月号 | 2019年9月30日発行 (毎月1回発行)
発行人: 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室

発行所: 一般社団法人 日本自動車工業会 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番30号 日本自動車本部
広報室 kounoz@ma.jama.or.jp 自主サイト: car-tounan-boushi.jp http://www.jama.or.jp/



田中理恵
が魅せる!

「華麗なる自動車盗難
防止対策」
WEB動画を配信中! YouTube



大切な愛車を盗まれないように、盗難防止対策をしましょう。

◆ イモビライザーの装着

偽造キーの対策に、
IDコードを活用した
イモビライザーが
効果的です。



◆ 車を離れる際のドアロック

短時間でも車を
離れるときは、
ドア・窓をしっかり
施錠しましょう。



◆ 盗難防止機器の活用

パー式ハンドルロック、
センサー式警報装置、
GPS追跡装置、
電波遮断キーケース*などを活用し、
盗難防止効果を高めましょう。
*効果を確認した上で、使用しましょう。



◆ 貴重品の置きっ放し厳禁

車内に貴重品を
置きっ放しにしたり、
スペアキーの
車内保管は厳禁です。



◆ 自動車部品にも盗難防止対策

ナンバープレートや
タイヤ・ホイール等は、
盗難防止ネジなどで
固定しましょう。



◆ 安全な駐車場選び

駐車場は夜間でも明るく、
防犯設備がしっかり
充実した場所を
選びましょう。



詳しくは、「STOP THE 自動車盗難」のウェブサイトへ。 <http://www.car-tounan-boushi.jp>

STOP THE 自動車盗難

検索

警察庁 財務省 経済産業省 国土交通省

一般社団法人日本損害保険協会 一般社団法人日本自動車工業会 全国共済農業協同組合連合会 一般社団法人全国警備業協会 公益財団法人全国防犯協会連合会
一般社団法人全国レンタカー協会 一般社団法人全日検 一般社団法人全日本駐車協会 一般社団法人日本貨物検査協会 日本自動車車体整備協同組合連合会
一般社団法人日本自動車整備振興会連合会 一般社団法人日本自動車販売協会連合会 日本自動車輸入組合 一般社団法人日本自動車連盟 日本中古車輸出業協同組合
一般社団法人日本中古自動車販売協会連合会 公益社団法人日本防犯設備協会 一般社団法人日本損害保険代理業協会 一般社団法人日本オートオークション協議会